

令和3年度 道路防災対策等に関する技術検討会

議事要旨

日時：令和3年10月29日（金）14：10～17：00

場所：池田土木事務所【現地：亀岡能勢線（能勢町倉垣）】

出席委員：河井教授、岸田教授、小山教授

（事務局）道路環境課岡本課長補佐ほか

議事次第：一般府道亀岡能勢線における異常気象時通行規制区間の緩和にかかる現地確認
について

主要地方道豊中亀岡線における規制基準について

- 一般府道亀岡能勢線（能勢町倉垣）の異常気象時通行規制区間の現地確認を実施
 - ・（事務局）現地確認前に防災点検結果や経験雨量および対策工等について説明し、現地確認で問題なければ、現行の連続雨量150mmに60mmを加え、210mmに緩和したい旨をお伝えした。
- 現地確認後、委員の意見を踏まえて対応内容を整理
 - ・（事務局）次の項目に整理。①落石崩落対策として切土、吹付法砕工及びモルタル吹付、ロックネット工の有効性を確認いただいた、②モルタル吹付工内に自生する植生については取り除きを視野に入れ経過を観察する、③現在は施工直後であるため、維持管理しやすい状態であるが、今後の維持管理方法については計画的に実施する、④対策未実施の経過観察区間においても経過記録を残し、引き続きカルテ対応による経過観察を行っていく。
 - ・（小山委員）切土、吹付法砕工についてはしっかり対策がとれており特に問題なし。モルタル吹付工内に自生する植生については早急に取り除く必要性はないが、対策工に影響を及ぼす可能性があるため取り除く必要はある。カルテ対応箇所は引き続き、経過に注視をお願いする。
 - ・（河井委員）なにかあった際に過去からの履歴が重要になってくる。吹付モルタル内の植生については点検の際に記録を残しておいた方がよい。

- ・（岸田委員）吹付法砕工の上部もきれいに伐採されており、安心感のある形状となっている。対策を講じ、見通しを良くすることで不法投棄を抑制する効果もある。落石ポケットに石がないか確認した方がよい。吹付モルタル内の植生については、そこだけにわかに変状するということはないだろう。
- ・（河井委員、岸田委員、小山委員）現行の連続雨量150mmに60mmを加え、210mmに緩和することに異論はない。
- ・（事務局）ご意見を踏まえ、計画的な維持管理や落石ポケットの確認、自生する植生の対応を行っていく。通行規制基準値については、現行の連続雨量150mmに60mmを加え、210mmへの緩和に向けた手続きを進めていく。

○主要地方道豊中亀岡線の通行規制基準の変更について

- ・（事務局）過去の実績データを基に、連続雨量および時間雨量と土砂災害の関係性について説明し、問題なければ、現行の時間雨量25mmを通行規制基準から撤廃したい旨をお伝えした。
- ・（小山委員）時間雨量のみの通行規制は現実的ではない。累積雨量基準を超えてから短時間で強い雨が降ると危険である。
- ・（河井委員）いきなり時間雨量を撤廃するのではなく、段階を踏んで、条件を組み合わせた運用方法を検討してもよいかもしれない。
- ・（事務局）雨量（時間雨量、連続雨量）と土壌雨量指数による比較検討資料により土砂災害警戒情報が時間雨量の規制基準をカバーしていることを説明し、了承をいただいた。
- ・（岸田委員）累積雨量と土壌雨量指数で管理できている。規制基準を適正に修正していくことが必要である。
- ・（河井委員、岸田委員、小山委員）現行の時間雨量25mmによる通行規制基準を撤廃することに異論はない。
- ・（事務局）現行の時間雨量25mmによる通行規制基準の撤廃に向けた手続きを進めていく。